

平成28年度 学校評価実施報告書

学校名(京都市立静原小学校)

1 1回目評価

・個別評価項目の設定及び各項目にねらいを定めた取組の計画・実施 ・取組結果を検証するためのアンケート項目や各種指標の設定			
分野	評価項目	(前年度評価を踏まえた) 自校の取組	(取組結果を検証する) アンケート項目・各種指標
確かな学力	授業改善 主体的に考え、表現し、伝え合える能力の育成 家庭学習の習慣化	各教科での言語活動のさらなる充実 全クラス授業公開の校内研究 学校だよりによる啓発活動	・児童の話す・聞く態度の変容 ・ジョイントプログラムの結果 ・平日は授業以外に平均何時間勉強していますか
	読書の習慣化	100冊読書の定着 朝読書の確実な実施	・平日は平均何時間家や図書館などで読書していますか
豊かな心	「公共の精神」に基づく態度の育成	・各活動で話し合いや協力の場を積極的に作る ・保護者・地域とのクリーンキャンペーンの実施	・友達や家族を大切にしていますか ・きまりをしっかりと守っていますか
	望ましい言葉づかい・進んで挨拶の徹底	児童会を中心とした発信と地域ぐるみの取組	子どもは望ましい言葉づかい・進んで挨拶ができていると思いますか
	協働活動を通じた豊かな心の育成	・各活動で話し合いや協力の場を積極的に作る ・保護者・地域とのクリーンキャンペーンの実施	・家の仕事の手伝いをしていますか ・きまりを守っていますか
健やかな体	自他を大切に する態度の育成	早寝・早起き・朝ごはんの呼びかけ 健やかチェック実施	就寝・起床時刻・朝ごはん食べているか
	体力の向上	・全校遊びやスポーツを通じた運動の習慣化 ・モーニングスポーツの取組	・自分からすすんで体を動かしていますか ・スポーツ参加状況及び体力テストの結果
独自の項目	学習環境整備・安全管理 地域と共に進める体験活動	・学校安全ボランティア登下校支援 ・校内整備点検の実施 ・農林業活動、環境学習等実施	・「学校は学習しやすいか、安全か」 ・体験学習の実施回数、内容
	情報発信の充実	積極的なホームページの更新	学校ホームページへのアクセス数



・アンケート実施結果、その他指標の結果について整理	自己評価	
	評価日	平成28年10月6日
	評価者・組織	学校評価委員会
アンケート結果・各種指標結果	分析 (成果と課題)	分析を踏まえた改善策
・ジョイントプログラム5年の国語・算数は全市を5ポイント上回る。6年の国語は下回るが算数は大きく上回る。	・自分の考えを発表する場を意図的に多くしていることで主体的な聞き方ができるようになってきた。	・自ら進んで学習するように取組をすすめていること、キャリア教育の視点での目標も意識して個の見取りを進めていることによると考えられる。
・「学年×15分以上勉強している」児童の割合は78%	・「自ら勉強する」「忘れず学習に使うものを黙日する」70%程度と関係が深い	・「自ら勉強する」「忘れず学習に使うものを意図する」ことを進んでしたくなるような指導をすすめる。
・9月の読書100冊以上達成は20%残りは、50冊を越えている。	・読書100冊への取組を進めてきている。本の種類に偏りがあるのでいろいろなジャンルも読むように進めていく。	・半年で50冊程度の児童の読書を促進するように働きかけていきたい。
・「できている」児童の割合は90%	・自分の掃除場所を決めて掃除に取り組み、教職員と共に活動していることによる効果と考える。	・自分のやるべきことの自覚のメニューを広げていく指導をする。
・「進んで挨拶する」児童の割合は、95%	・確実にあいさつをするように指導している。	・学校に来られる方との体験学習も多くなっている。感謝の気持ちを更に粗立てしていきたい。
・住んで掃除や仕事を「する」児童は90%。保護者から見た評価は33%。	・「そう思う」児童38%、「大体そう思う」児童52%というように、家でも進められる児童が38%である。	・掃除だけでなく、自分で気づいて実行に移せるように指導を進めていく。仕事をする意味の理解をすすめる。
・「学年相応の睡眠時間が取れている」児童の割合は82%	・早寝・早起き・朝ごはんができている割合は90%を目指したい。	・健やかチェックの活用。保健室だよりだけでなく、食育指導、栄養指導を煤げしていく。
・「運動したり遊んだりしている」児童の割合は90% ・参加児童数は約5割	・体を動かすことが好きな児童の割合が高まっている。	・朝の運動、中間マラソン等の運動時間を効果的に運動に使う。
・小中合同の研修を行った。 ・体験活動よかった、 ・地域行事参加の児童は90%越。教職員の指導、参加は80%、60%。	・体験活動等地域と共に進めている学習についての教職員の主体的な関わりにはばつきがある。	・体験活動等で児童にどんな力を付けるのかしっかりと考えて進めるようにしていきたい。
・アクセス数7500を超えている。・昨年総数14000と考えると昨年より増加。	・HPの更新数増加	・個の見取り、学習評価点検と連動させて取り組んでいく。



学校関係者評価	
評価日	平成28年10月21日
評価者 (いづれかに○)	学校運営協議会 学校評議員
学校関係者による意見	学校運営協議会・学校評議員による改善に向けた支援策
・児童のしっかり話す姿、外国の方にも物おじせず自然にコミュニケーションをとるなど取組の成果と考えられる。自分の思いや考えを発表する力はついている。 ・自分でやりきることの不十分さを感じる。	・コミュニケーションをとる場面の設定や相手として体験活動等の協力をしていきたい。最後まで考える子どもの育成、やり遂げるまで見守ることが大事である。 ・学校が目指している自覚の実行力という力が漠然としているのではない。より具体的な目標設定が必要ではないか。
・児童にとって学校が楽しいことは大切なことである。進んであいさつも90%を超えている。 ・中学で急に人数が増えて戸惑うかもしれないが、数か月もすれば慣れるので心配はない。 ・子どもが地域行事へ出演するようになったのは、当時のPTAが豊かな経験のために様々な発表の場を探し出演するようになった。	・楽しく学校生活を送ることにつながる体験活動のサポートをしていきたい。たくさん関わること、親しくなり、挨拶の声も元気になるでいこうと考える。多くの中で学ぶ経験として他校と交流、ICT活用テレビ会議などを取り入れればよい。 ・地域行事に参加するのは、教育活動としてどんなプラスがあるか考えて進めていきたい。
・子どもたちが元気に運動したり遊んだりしていいと思う。 ・子どもの塾通いが多くなっている。教師も子どもも忙しいと取組に影響しているのではないか。	・子どもたちが主体的に元気に運動したり遊んだりしていけるように育てていただく事は大事なことだと思う。 ・明確な目標設定とその共有が必要となるだろう。
・体験活動等地域と共に進める学習について児童と教職員とのギャップが大きい。教職員の自覚の実行力のレベル向上が必要。	・地域の行事を子どもの教育の中にどう位置づけるか明確にしていこうこと、休日の地域行事への参加が負担となるなら、地域も考え精選していくべき。地域が主体となって子どもたちにはたらきかけていけるようにしていきたい。

平成28年度 学校評価実施報告書

2 2回目評価

・個別評価項目の設定及び各項目にねらいを定めた取組の計画・実施 ・取組結果を検証するためのアンケート項目や各種指標の設定			
分野	評価項目	(1回目評価を踏まえた) 年度末までの取組	(取組結果を検証する) アンケート項目・ 各種指標
確かな学力	授業改善 主体的に考 え、自ら進んで 学習する児童 の育成 書く力の向上	各教科での言語活動のさら なる充実 全クラス授業公開の校内研 究 問題解決学習の推進。書く ことを特に意識した指導 を進める。	・児童の自ら進んで学習 する態度の変容 ・ジョイントプログラムの結 果 ・ノートの活用の足跡点検 ・ジョイントプログラムの結 果
	家庭学習、読者 の習慣化	100冊読書の定着 朝読書の確実な実施	・家庭学習の時間確認 読書量の確認
豊かな心	「公共の精神」 に基づく態度の 育成・進んで挨拶 の徹底	・各活動で話し合いや協 力の場を積極的に作る ・一人一場所の掃除場所 を決めて清掃する「一人 そうじ」の実施 ・各活動で話し合いや協 力の場を積極的に作る ・教職員全員での清掃指 導	・自他ともに大切にしてい ますか。 ・きまりや時刻を守ってい ますか。 ・進んで掃除や自分の仕 事をしていますか。
	自他を大切に する態度の育 成	早寝・早起き・朝ごはんの 呼びかけ 健やかチェック実施	・健康や安全に気をつけ て生活していますか。 ・健やかチェックの調査
健やかな体	体力の向上	・全校遊びやスポーツを 通した運動の習慣化 ・モーニングスポーツの取 組	・元気よく運動したり遊ん だりしていますか。 ・マラソン大会での成果確 認
	独自の項目	・主体的活動ができるよう に指導を進める。	・自覚的実行力を意識し て生活していますか。 ・個の見取りを確実に意 図的にする。



・アンケート実施結果、 その他指標の結果に ついて整理	自己評価	
	評価日	平成29年2月23日
	評価者・組織	学校評価委員会
アンケート結果・ 各種指標結果	分析 (成果と課題)	分析を踏まえた改善策
・ジョイントプログラム国語 全市比110%・算数全市 比119%の通過率	・帯時間も含めて、書く 事、ノートに書くことを意識 して授業を進めたことによ り、主体的な学びにつな がった結果と考えられる。 ・授業における「めあて」 ～「ふりかえり」を書くこと の徹底が学力向上につな がったと考える。 ・繰り返し計算や漢字な どの練習も数多く取り組 むようになったことも結果 につながっている。 ・「読書100冊」の全校での 報告、本の紹介をさせた	・ノートの良い例の交流、 書く内容の交流をしなが ら、自分のノートの振り返 りをさせていくと、自主学 習も含めて効果が上がる。 ・100冊読書達成児童を 表彰で、読書時間が増 加。貸出回数も増加した。 読み聞かせの本紹介も効 果的。
・「書くこと」の取組を朝学 習や授業で意識してすす めた。	・「早く寝る」は中高学年に なるとできている値が5 0%70%と下がる。「早く 起きる」は中学年が75%	・朝の挨拶だけでなく、掃 除の時間を全教職員で児 童と関わり名が進めたこと で、人間関係が密になり、 自然にあいさつやコミュニ ケーションをとることが できるようになった。
・「読書100冊」全員達成。 児童へのアンケートで家 庭学習を進めるとの 回答が、ほとんど。	・自分から進んで挨拶をす るとの回答が、ほとんど。 ・進んで掃除や自分の仕 事をすることは、学校ではほと んどができていますと回答してい る。家庭でとるときにできている 割合が下がる。	・保護者や地域の方々 と協働活動し、励ましやお 褒めの言葉をもらった児 童が多く、自己有用感の 向上にも繋がったものと 思われる。今後も児童が 様々な立場の方と接する 機会を作りたい。
・「早く寝る」は中高学年に なるとできている値が5 0%70%と下がる。「早く 起きる」は中学年が75%	・早寝・早起き・朝ごはんができて いる割合は健やかチェックを続け ているので、定期的に意識して進 められるようになっていく。 ・体を動かすことが好きな児童、 主体的に動くことへの割合が 高まり、モーニングスポーツへの 参加が早く出来るようになってき た。	・基本的生活習慣の確立に向け ての取り組み方、評価基準の設 定は、児童の望ましい姿(起きる 時刻の目安)を目標とできるよう にしていくと家庭とも連携でき る。 ・運動や遊びの準備も含めて児 童が主体的にできるように指導 すると、運動のめあてに向かっ ての活動も主体的になる。
・5年生の体力運動能力テ ストは、全国や京都府平 均をはるかに上回る。	・全学級授業研修会で授 業公開。自覚的実行力育 成に向けての共通理解を して、全校で進める。	・自覚的実行力ができた 場面の個の見取りをとい ねいにやり、児童に返すこ とで、児童のつぎの目標 が分かりやすくなった。
・全学級授業研修会で授 業公開。自覚的実行力育 成に向けての共通理解を して、全校で進める。	・学校通信、ホームページ掲載な ど機会あるごとに話をするなどし て、具体例を挙げるとイメージを もって同じように関わっていた けるようになる。	・情報の発信による効果 は大きい。自覚的実行力 の推進につなげられると いい。



学校名(京都市立静原小学校)

学校関係者評価	
評価日	平成29年3月14日
評価者 (いずれかに○)	学校運営協議会 学校評議員
学校関係者による意見	学校運営協議会・ 学校評議員による 改善に向けた支援策
・児童個々人でつけられる 力はしっかりつけられるよ うに指導していただいてい る。発表の機会が少人数 であることでどの子にも保 障され、確実に丁寧に指 導されている。 ・人数が少なく、遅くても 待ってもらえる環境でもあ り、それが当たり前になっ ている。より高いものをめ ざす刺激が必要である。	・読書数も後期増えてい る。本に親しんでいけるよ うに、学校運営協議会の 読書部会のメンバーを増 やすことを検討する。 ・子どもたちの主体的学び に向けて、体験活動のサ ポートをしていく。
・家庭での仕事をさせる事 は、大切だ。身に付けた 力が、どこに行ってもでき るように仕事を決めてさせ たい。家庭との連携をしっ かりしてできたかどうかの 検証もする。	・地域行事での子どもたち の活動も責任のある役割 を割り当てられるようにし て進めていきたい。 ・学校運営協議会の体験 活動部会において進める 活動も、児童が主体的に 進める活動となるように進 めていきたい。
・規則正しい生活や基本的生 活習慣は、小学生の段階で 身に付けておくべきである。 ・スマホやゲームなどで時間 を使うことや依存になって いる話を一般的に聞く。時間 の使い方早寝早起き朝ごはん 等、誰が見ても同じ視点で評 価することで基本的生活を 安定させたい。	・子どもも大人も楽しめる スポーツを学校運営協議 会の安全・福祉・スポーツ 部会で検討していきたい。 ・盆踊りを児童も一緒にし ているが、やり方が分かっ ていないところもあり、練 習会も考えていきたい。
・情報の発信による効果 は大きい。自覚的実行力 の推進につなげられると いい。	・学校の教育方針を理解して 協力していきたい。体験活 動の支援をするときは、学校 と同じ方向でできるように協 力していきたい。

3 総括・次年度の課題

- ・学びの質を高めるため、少人数だからうまく出来ている事もあるが、人数が少ないために伸ばしきれていないこともある。自覚的実行力の育成に向けて、地域・保護者と連携して共に考えて進めていかなければならない。
- ・自覚的実行力を発揮する場面が多くなってきている事と関連して、主体的に問題に向かって取り組む姿も増えている。学習へも主体的に取り組むことで学力テストの結果もよくなってきている。この流れをより強固なものにするように日常の指導をていねいにしていきたい。
- ・地域行事も児童を育てる大事な機会である。学校で考えている事と同じ視点で進められるように連携していきたい。保護者連携も同じ視点で進められるようにしていきたい。学校評価をいかしていく。